

杉原千畝とユダヤ避難民の足跡を紹介

じゅふくしげる 「枚方市平和の日」にあわせ寿福滋 写真展

◎チラシあり

枚方市平和の日記念事業の一環として、枚方市総合文化芸術センターひらしん美術ギャラリーで2月23日(水・祝)～28日(月)まで、「杉原千畝(すぎはらちうね)とユダヤ人の逃亡した足跡—寿福滋(じゅふくしげる)写真展—」を開催している。無料。

杉原千畝のビザにより救われたユダヤ人が自由を手に入れるまでの苦難の道の日を、写真家・寿福滋氏(1953-2019)がライフワークとして取材・撮影した写真約50点とともに千畝の手書きビザの複製、手記なども展示する。担当者は「枚方市平和の日にあわせ写真展をきっかけに平和の尊さについて考えてもらえれば」と話している。

★「杉原千畝とユダヤ人の逃亡した足跡—寿福滋写真展—」

日時など：2月23日(祝)～28日(月) 午前10時～午後6時(最終日午後4時)
場所：枚方市総合文化芸術センター本館ひらしん美術ギャラリー 無料

★ 杉原千畝(1900-1986)は日本の外交官。第2次世界大戦中、リトアニアの領事館に赴任していた際、外務省の決定に反し、ナチス・ドイツの迫害により命の危険にあったユダヤ系難民などに日本への通過ビザを発給し約6000人を救済した。

★ 写真家・寿福滋氏(1953-2019)は、関西を中心に活躍したフリーカメラマン。アウシュビッツを訪れて以来、杉原千畝の行為に感銘を受け、千畝によって「命のビザ」を得た避難民の旅路を取材・撮影を続けることをライフワークとしてきた。

★ 枚方市には、戦前から火薬製造所など旧陸軍施設が3か所あり、その一つ禁野火薬庫が昭和14年3月1日に大爆発を起こし、約700人もの死傷者を出す大惨事となった。この惨事を風化させないよう昭和57年に府内で初めて「非核平和都市」を宣言。火薬庫爆発から50年後の平成元年に3月1日を「枚方市平和の日」と定め、毎年記念行事を行っている。

<お問い合わせ>

観光にぎわい部文化生涯学習課 ☎ : 072-845-1409 FAX : 072-841-1278



シベリア鉄道ベトロスキー・ザヴォート駅 ©寿福 滋

杉原千畝と

ユダヤ人の逃亡した足跡

寿福 滋 写真展

令和4年(2022年)

2月23日(水・祝)～2月28日(月)

10:00-18:00 (最終日2月28日は16:00まで)

入場無料

枚方市には、戦前、火薬製造所など旧陸軍施設が3か所もあり、その一つ禁野火薬庫が1939(昭和14)年3月1日に大爆発を起こし、約700人もの死傷者を出す大惨事となりました。

こうした惨事を風化させないよう、1982(昭和57)年に大阪府内で初めて「非核平和都市」を宣言、火薬庫爆発から50年後の1989(平成元)年に、3月1日を「枚方市平和の日」と定め、毎年さまざまな記念行事を行っており、今回、記念事業の一環として杉原千畝をテーマに企画展を開催することとなりました。

杉原千畝は、第2次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害により命の危険にあったユダヤ系難民などに日本への通過ビザを発給し、約6,000人を救済しました。

今年度は、彼のビザによって救われたユダヤ人が自由を手に入れるまでの苦難の道のりを、写真家・寿福 滋氏(1953-2019)がライフワークとして撮り続けた写真により追体験する展示を行い、杉原が残した功績を振り返ります。



上:「働けば自由になれる」アウシュビッツ正門 ©寿福 滋
右:カウナスの日本領事館での杉原千畝



枚方市総合文化芸術センター 本館

ひらしん美術ギャラリー

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-1-60

(京阪電車枚方駅北口より徒歩5分)

お問い合わせ ■枚方市 観光にぎわい部 文化生涯学習課

TEL 072-841-1409 FAX 072-841-1278

主催 ■枚方市 協力 ■NPO法人杉原千畝命のビザ/岐阜県八百津町/サンライズ出版株式会社

